

地域農業を 未来につなぐJAの役割

～JA北びわこの実践～



北びわこ農業協同組合
営農経済部 施設課 細川貴紘

JA北びわこの概要

主な事業量（令和6年度末実績）		（億円）
貯金		1,299.75
貸出金		114.11
長期共済保有高		3,014.39
販売品販売高		25.00
購買品供給高		11.48

主な作物別作付面積（令和6年度末実績）		（ha）
水稲（主食用）		3,778
水稲（非主食用）		456
大麦		910
大豆		716
野菜・雑穀等		110
そば		204

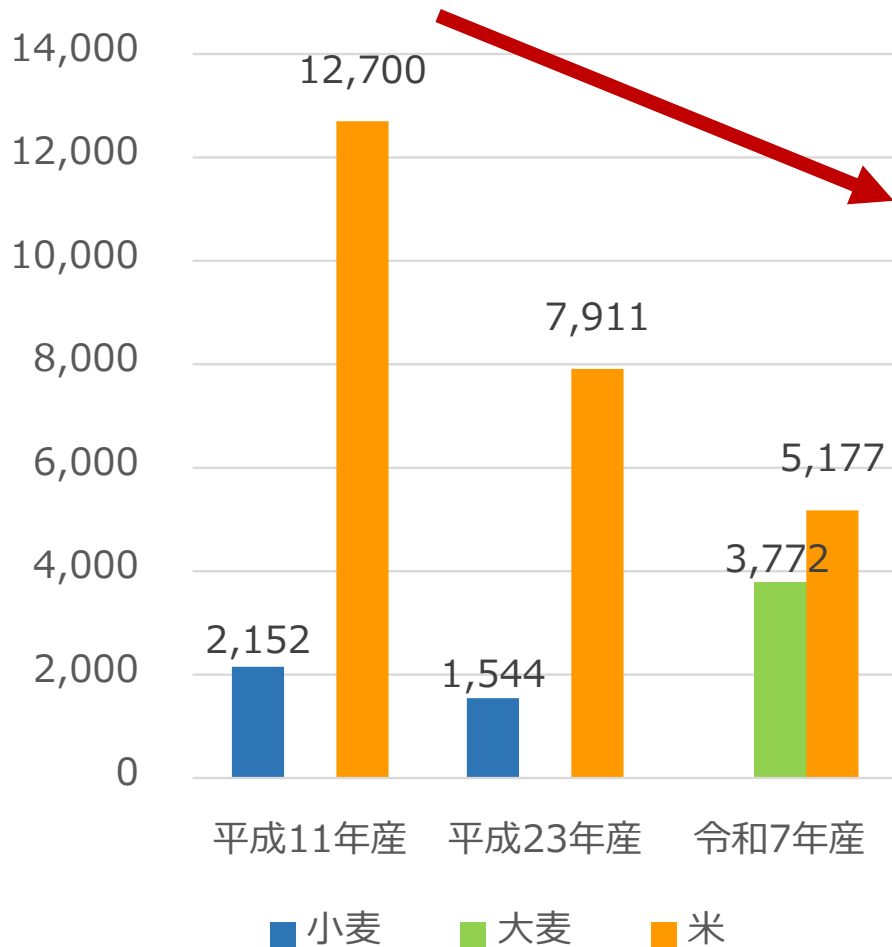
JA北びわこ



組合員の状況（令和6年度末実績）		（名・団体）
正組合員		4,865
准組合員		7,735
合計		12,600

課題① 荷受量構造の変化と将来見通し

米麦乾燥調製施設荷受量推移



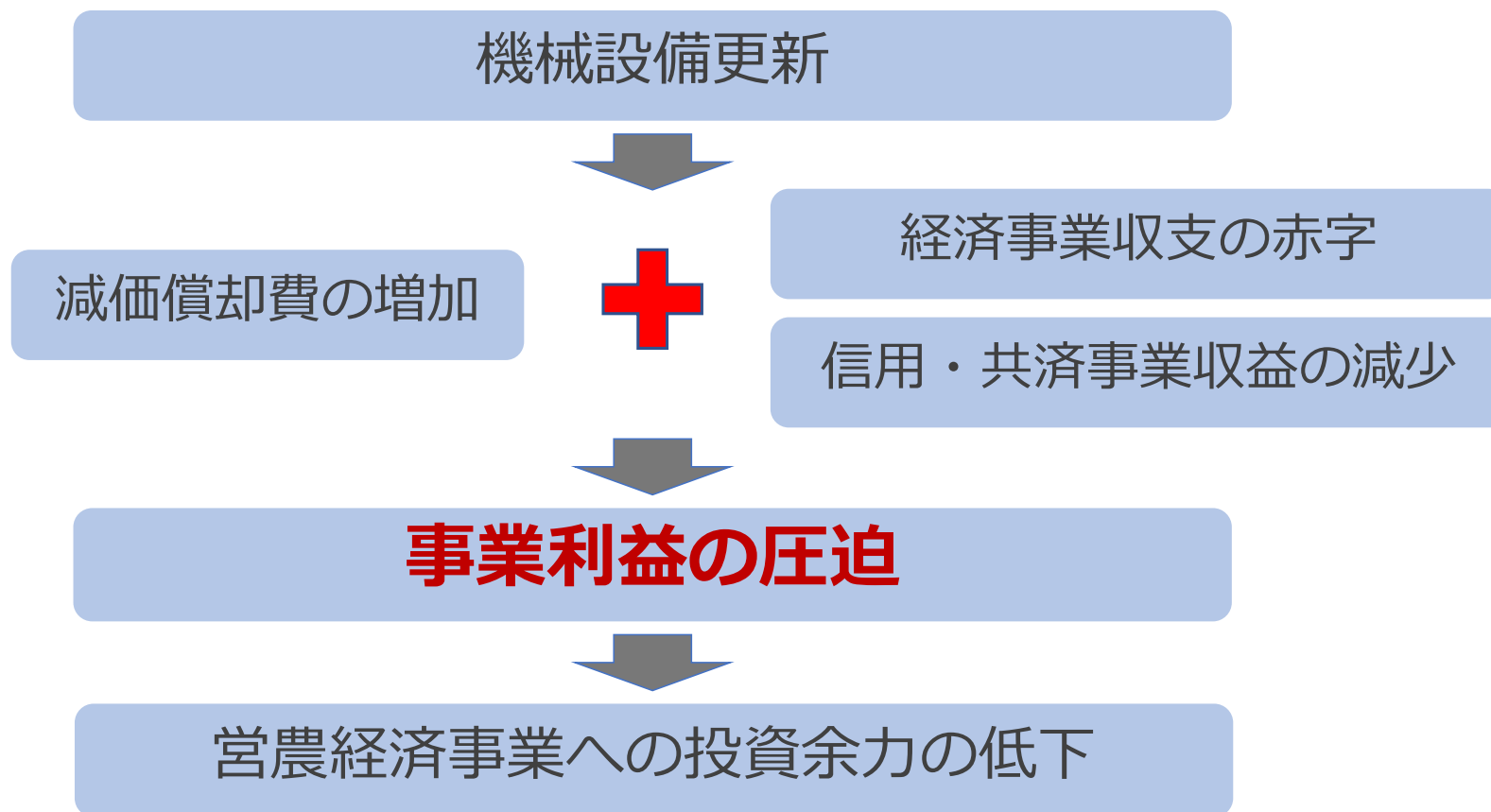
- 米の荷受量は26年間で**40.7%減少**
 今後は緩やかな減少トレンド
- 管内の担い手農家への**集積率は80%超**
 結果、自家乾燥・自家調製が増加
- 共乾施設への荷受量は減少するが、
 中山間地域、集落営農組織など多様な担い手の
 受皿として**地域農業を支える施設機能は必要**

課題② 老朽化が進む共乾施設の現状

施設名	稼働開始	経過年数	設備更新計画
浅井CE	1996年	30年	更新・増強
びわCE	1999年	27年	更新・増強
湖北西部RC	1997年	29年	更新・増強
高月CE	1978年	48年	廃止・機能移転
永原CE	1997年	29年	更新・増強 (自己資金)

機械設備の耐用年数が経過し更新が必要

課題③ JA財務基盤の制約



設備更新が必要である一方
JA財務制約により投資は長期化せざるを得ない

補助事業活用による設備投資計画の前倒し

〔主な設備投資内容〕

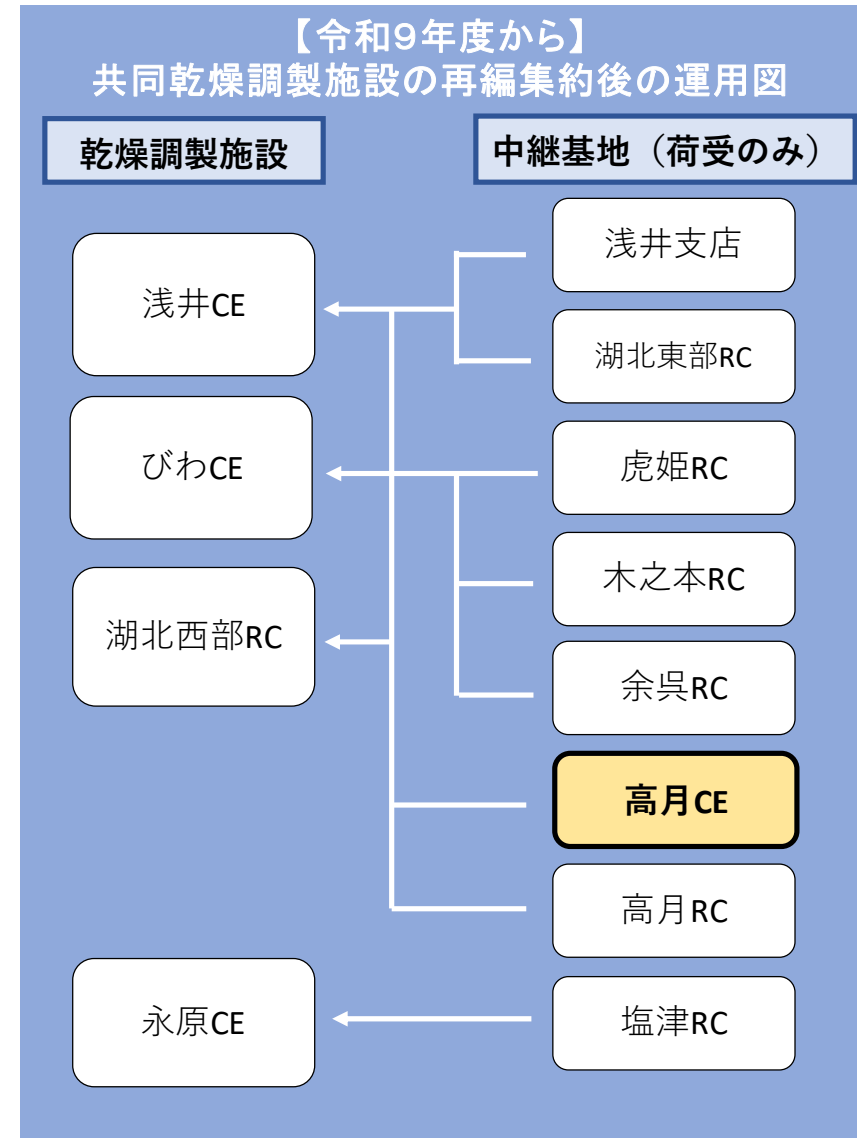
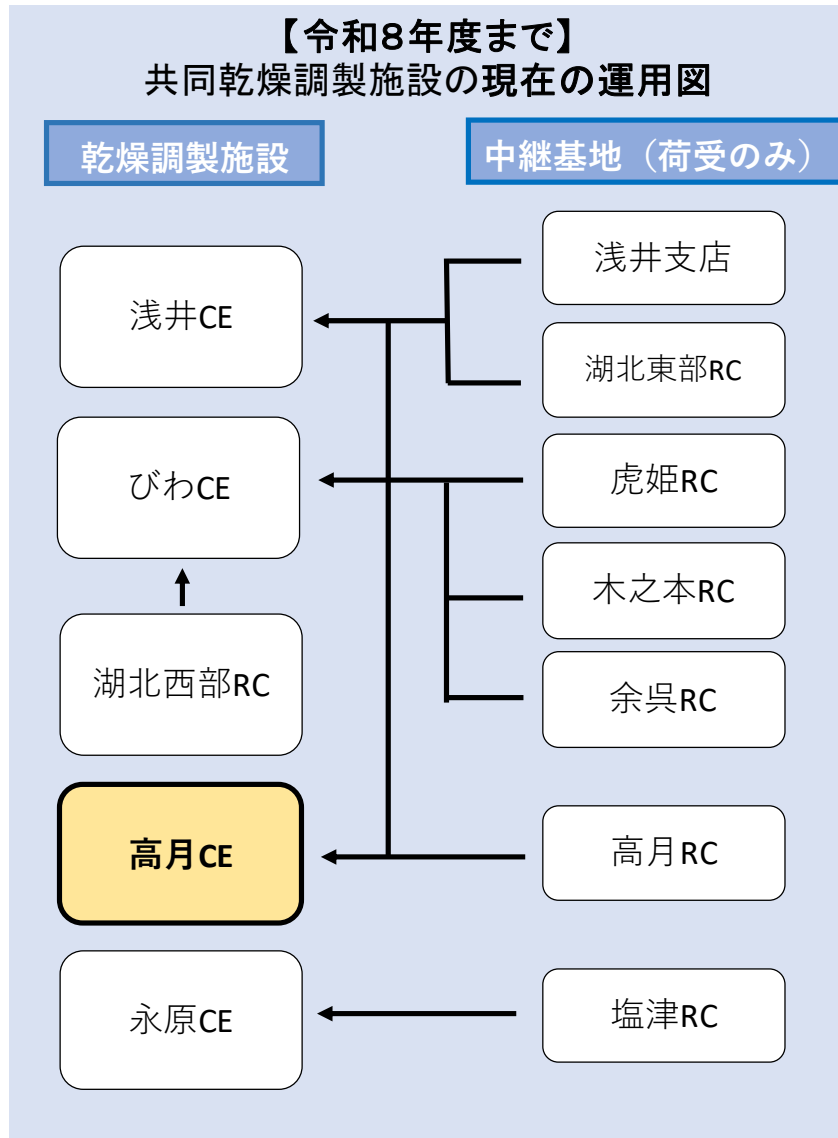
令和7年	<ul style="list-style-type: none"> ● 【補助金】 31,440千円 ● 【自己資金】 29,610千円 	【びわCE】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 粳摺機 1台・計量機 1台 ・ 荷受計量機操作盤
令和8年	<ul style="list-style-type: none"> ● 【補助金予定額】 91,260千円 ● 【自己資金予定額】 84,850千円 	【浅井CE】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 粳摺機 1台・荷受計量機操作盤 【びわCE】 ・ 粳殻粉碎設備新設
令和9年	<ul style="list-style-type: none"> ● 【補助金予定額】 183,060千円 ● 【自己資金予定額】 169,160千円 	【浅井CE】 ・ DAG 4台 機能強化 【びわCE】 ・ DAG 6台 機能強化 【湖北西部RC】 ・ 粳摺機移設 【高月CE】 ・ 解体撤去費用

総投資額 約5.9億円

※令和8年度・令和9年度は申請時点の計画額

補助事業の活用により設備投資を10年計画から3年に短縮

再編後の施設配置と荷受体制



施設再編による荷受量と稼働率改善

高月CE
令和7年産
荷受量
米：1,293 t
大麦：754 t

浅井CE	令和7年産荷受量 米：1,002 t 大麦：989 t 再編後荷受量 米：1,295 t 大麦：989 t 増加率 129.2% 稼働率 62.6% ⇒ 80.9%
びわCE	令和7年産荷受量 米：1,020 t 大麦：1,326 t 再編後荷受量 米：1,763 t 大麦：2,080 t 増加率 163.8% 稼働率 42.5% ⇒ 73.5%
湖北西部RC	令和7年産荷受量 米：641 t 大麦：703 t 再編後荷受量 米：848 t 大麦：703 t 増加率 132.3% 稼働率 57.2% ⇒ 75.7%

施設設備を契機とした高温登熟性品種の導入

令和5年		▶	令和11年	
品種名	作付割合 (%)		作付割合 (%)	
高温登熟性品種以外	93.54		83.51	
高温登熟性品種	6.46		16.49	

品質の向上、収量性の向上、農家手取り額の最大化を実現

おわりに



荷受量の現状を分析し
将来を見通して中長期での共乾施設運営計画を策定



施設の選択と機能を集約した設備投資計画を策定



国・県などの補助事業を最大限に活用し
10年計画を3年に短縮



将来にわたり
地域農業の持続性を支えるJA共乾施設運営の実現

今こそ行動を：地域農業を未来につなぐJAの役割